

# LAYANG LAYANG

9-10月の出来事

## 民間企業支援※2件：赤外線カメラセミナー/活性汚泥処理研修

海洋総合開発(株)は、船舶搭載24時間監視カメラシステムをMMEA (海上法令執行庁)の保有船舶に搭載し、熱帯海域での性能確認などの実証試験を行った成果を報告するセミナーを開催しました(写真左)。写真右は阪神動力機械(株)が実施するパームオイル工場の排水処理技術に関する研修の様子。



赤外線カメラの引き渡し式  
(9月30日)

「海上保安強化を目的とした船舶搭載24時間監視カメラシステム普及・実証事業」



大阪工業大学の協力により研修実施  
(9月6日)

「パームオイル工場の排水処理高度化・資源循環利用普及・実証事業」

※民間連携 事業/中小企業海外展開支援事業

## 福島県中島村村立中学校の修学旅行でサバ州の協力隊訪問



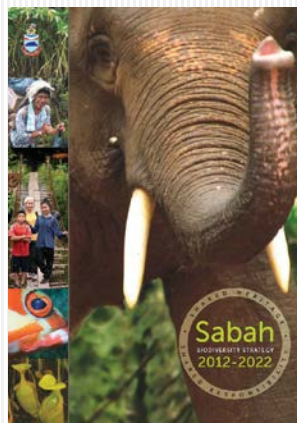
協力隊員の説明と案内によって  
ウェットランドセンターを見学



9月14日、50名の中学生がサバ州コタキナバルのウェットランドセンターを訪れ、活動中の青年海外協力隊員の説明と案内により環境保護について学びました。中島村村立中学校によるマレーシア訪問は今年で3年目です。ほかに地元の中学校との交流なども行われました。

## サバの生物多様性保全戦略が正式にローンチング

サバ州の生物多様性保全のために、保護区や保護区以外の住民も共に自然共生社会を実現するための戦略と行動計画が発表され、取り組みの開始が宣言されました。10月11日にキナバル公園で行われたセミナーでは、サバ州文化環境副大臣が宣言を行いました。



ローンチングセミナーの様子

「サバ州を拠点とする生物多様性・生態系保全のための持続可能な開発プロジェクト」 期間：2013/7-2017/6 マ側機関：サバ州政府機関



## 危険物を取り扱う専門の消防局員が日本で技術研修



9月4日から17日までの2週間、20名のマレーシア消防局職員が日本で研修を行いました。この研修は3年目となりますが、今回は特に危険物取扱いに焦点を当て、専門のチームが様々な危険物についての知識や、除染の方法などの具体的な技術を習得しました。



「消防行政能力向上プロジェクト フェーズ2」 期間:2016/4-2018/3 マ側機関:消防局

## 高齢化社会に向けた地域支援構築プロジェクトの全国セミナー



高齢化社会に対応してゆくため、地域での高齢者の活動や支援を考えるプロジェクトを開始、10月に2日間の全国セミナーを開催しました。女性家族地域開発省大臣による開会式の後、シンガポール、タイ、日本からの取り組みが共有され、今後のマレーシアでの高齢化社会への対応策に活用されます。

「高齢化社会に向けた地域社会に根差したプログラム及び社会的支援の構築プロジェクト」 期間:2015/11-2017/11 マ側機関:社会福祉局

## アフリカ向け投資促進研修員がDaikin Malaysia社を訪問

MIDA（マレーシア投資開発庁）の第三国研修「アフリカ諸国向け投資促進」の一環で、10月13日にアフリカの7か国、14名の研修員がDaikin Malaysia社を訪問し、手厚い歓迎を受けました。研修員は、同社がMIDAから提供されたサービスやマレーシアに投資を決めた要因などの説明を受け、製造や研究開発の現場を視察し、活発な意見交換を行いました。



第三国研修「アフリカ諸国向け投資促進」 期間:2016/10/11-21 マ側機関:マレーシア投資開発庁

## トピックス

# マレーシアの自然保護

マレーシアは、多種・多様な生物が生息している「メガ・ダイバーシティ」の国として有名です。この自然を守るため、例えばマレーシアのサバ州だけでも数多くの国立公園や森林保護区、野生動物保護区などが存在し、実に州面積の約52%を占めています。これら保護区では、動植物の採取は禁止か、限られた目的以外の利用は制限されています。これは環境保全のために大切なことですが、もともとその地域で暮らしていた人々にとっては、これまで生活のために活用していた、例えば食用の魚や材木用の木、食用植物などを自由に採ることができなくなることを意味します。環境保全のためには、このような人々が、保護区内外の自然資源に依存せずに暮らしていけるよう、新しい農作物の導入や工芸品の販売など新たな収入の道を作る活動も必要とされています。

サバ州のJICAプロジェクト「サバ州を拠点とする生物多様性・生態系保全のための持続可能な開発プロジェクト（SDBEC）」では、活動の一つとして、保護区に隣接した村の住民の生計向上を支援しています。住民と複数回のワークショップで話し合った結果、クワの実の加工技術やこれまで伝統的に行ってきた養蜂技術の研修を行ったり、河川の環境教育を実施したりしています。また、保護区内のCUZ（Community Use Zone：公園局の管理下で伝統的な手法に限り保護区の生物資源を活用することが許されているエリア）では、青年海外協力隊が地元の工芸品の販売ルートを開拓したり、コミュニティで観光客を受け入れる「ホームステイプログラム」を導入したりする支援をしています。

マレーシアの自然を堪能される際には、そこにある自然だけではなく、そこで暮らす人々とその暮らしにも想いを馳せてみると、自然と「共生」しているこの国のまた違った姿を見ることができるとも思われます。

(JICAマレーシア事務所所員 宮川朋子) (写真:パイロットサイトのトゥダン村)



## その他のニュース「南南協力」

- 質の高い教育を実習を通じて学習—第三国研修 アフリカ諸国向け初等理科教育—  
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/160926.html>
- 周辺国の労働安全衛生の向上を目指して—第三国研修カンボジア・ラオス・ミャンマー・ベトナム向け労働安全衛生管理  
[https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/160927\\_01.html](https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/160927_01.html)
- マレーシアにも政策課題を共有 アフリカ諸国向け中小企業振興第三国研修  
<https://www.jica.go.jp/malaysia/office/information/event/161012.html>

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp/>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)

### JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia

Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)